8部

3月卒業者アンケート結果

2018年３月に本学通信教育部を卒業された方を対象にアンケート調査を実施しました。学習の参考・励みにしていただければ幸いです。

●卒業者の概要

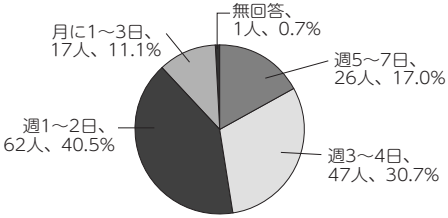
2018年３月の卒業者は、295名（社会福祉学科252名、福祉心理学科43名）で、４月入学が272名、10月入学が23名であり、１年次入学が45名、２年次編入が３名、３年次編入が247名でした。くわしくは、p. 53〜54参照。

●アンケート集計結果

今回の卒業者アンケートは卒業者295名中153名（社会福祉学科　132名、福祉心理学科　21名）から回答をいただきました（回収率51. 8%）。１年次入学が23名、２年次編入が３名、３年次編入が127名でした。

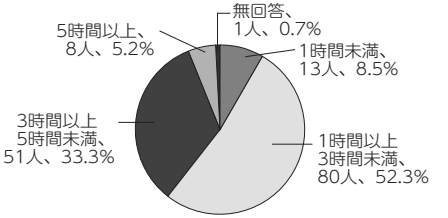
１　学習頻度や学習時間についてお聞きします。

１）学習の頻度はだいたいどれくらいですか。

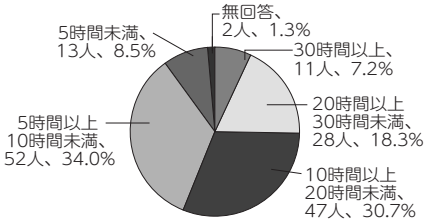


「月に１〜３日」回答の方のうち７名は卒業までに年数を要している方でした。最短年限卒業の４名のうち２名は２）の１回の学習時間が長い方でした。残り２名は福祉職の方でしたので事前の知識もあり、かつ効率的な学習をされた方でしょうか。

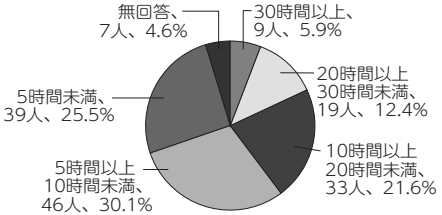
２）学習する日の１日の学習時間は平均してどれくらいですか。



3）1単位分のレポート（論述式のもの）が完成するまでに要する平均時間はどれくらいですか。



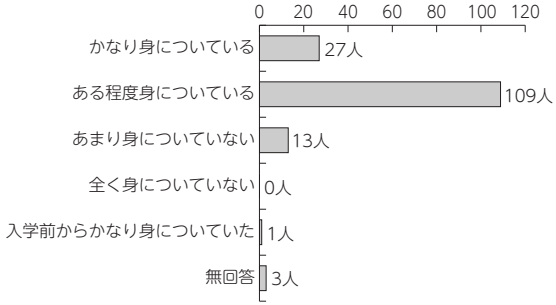
4）1科目の科目修了試験準備に要する平均時間はどれくらいですか。



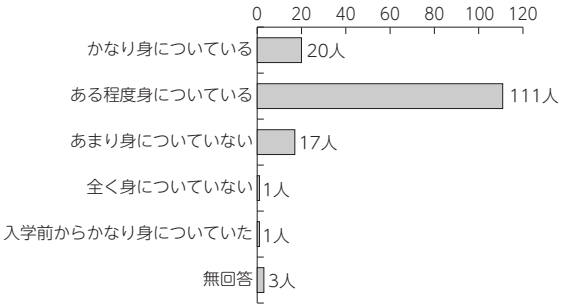
2　自己評定による「学士力」の達成度として、通信教育部での学びを通して現在あなた自身で身についていると思うものについてお聞きします。

1）知識・理解など

①　（社会福祉学科の方）社会福祉の意義と機能に関する基礎的知識。
　　（福祉心理学科の方）人の思考・感情・行動の原理や法則、理論について説明できる心理学の基礎的知識。

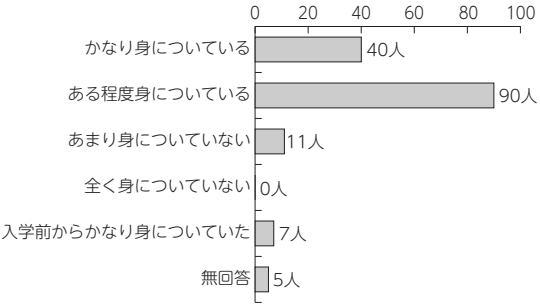


② さまざまな人が抱えている生活上の問題や心理的な問題への支援に利用できるなど現場でいかせる実践的知識。

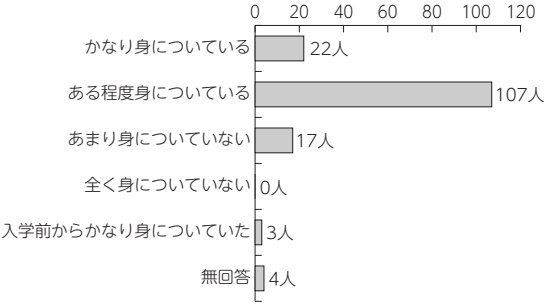


2）汎用的技能など

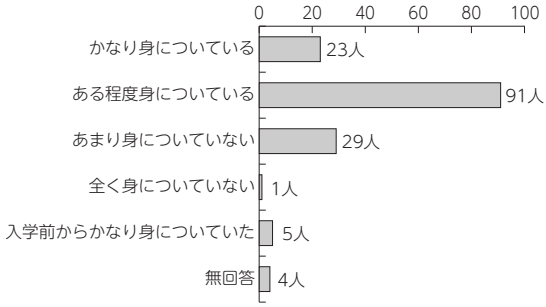
③ 多様な価値観を理解し、自己とは異なる意見や考え方をもつ人々とコミュニケーションをとる力。



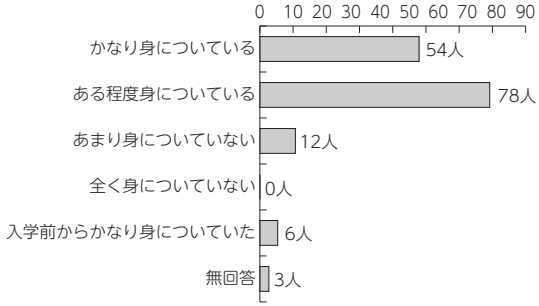
④ 求められるレポートや課題の趣旨を理解し、必要な情報を精査・選択し、わかりやすい文章や言葉で他者に伝える力。



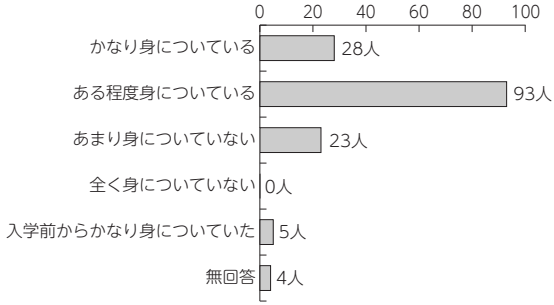
⑤　根拠から結論を導き、自分の意見を筋道立てて論理的に表現する力。



⑥　参考図書やインターネットなどを用いて必要な情報を収集する力。

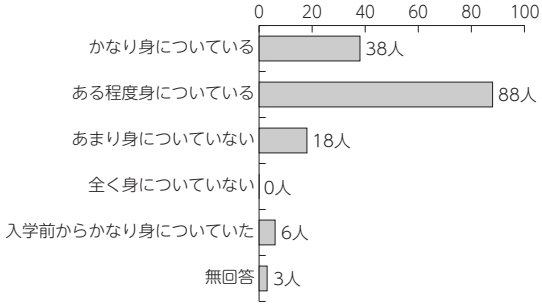


⑦　自ら問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、問題を解決・調整できる基礎的な力。

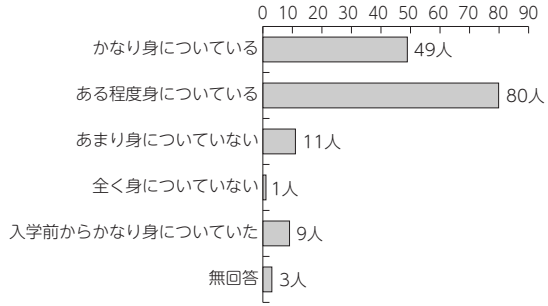


3）態度・志向性など

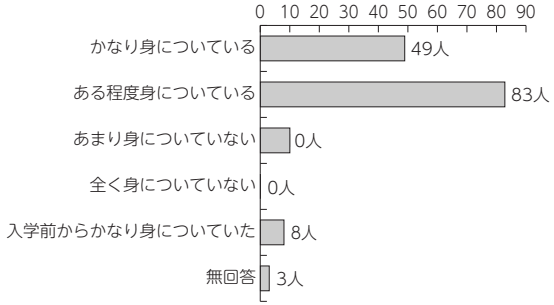
⑧　時間の管理、感情や欲求の適切なコントロール、状況に応じた適切な行動など、自らを律する力。



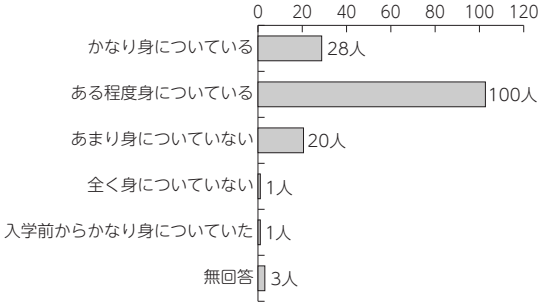
⑨　他者に配慮しながら、目標と問題を共有したり、協調・協同して行動できる力。



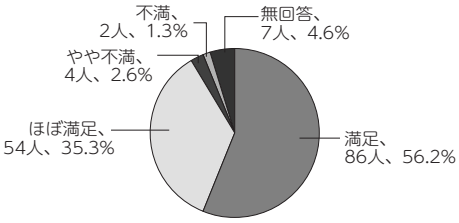
⑩　人間の尊厳や基本的人権を尊重し、人びとの幸せや地域・社会の発展のために積極的に関与しようとする姿勢。



⑪　所属学科での学びを統合的に活用し、自ら課題を設定し、理論と実践を融合しながら解決策を導き出す力。

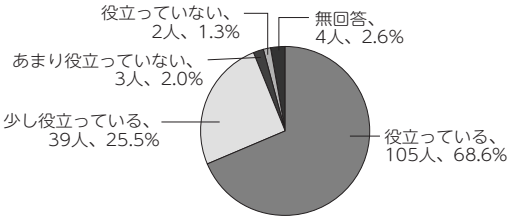


3　通信教育事務部の職員の対応はいかがでしたか。

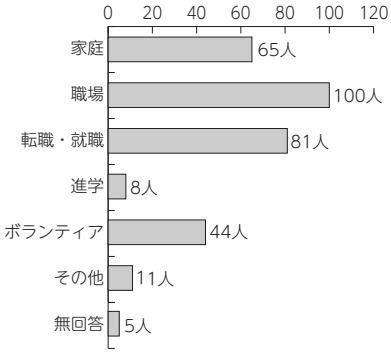


4　学習の成果の活用についてお聞きします。

1）通信教育部で学んだ内容や得た資格は、職場や家庭などで役立っていますか。一番あてはまる項目を選択してください。



2）通信教育部で学んだ内容や得た資格をどこで役立てていますか。または、今後どこで役立てていきたいですか。あてはまる項目をすべて選択してください。（複数回答）



【社会福祉学科　卒業生より】

（全般的に役立っていること）

・人とのつきあいのなかで相手の価値観を大切にするという思いが以前より強くなった。その意味では人間を見る目が変わり、今後生きていくうえでとても大切なことを学んだと思う。
・多方面から物事を考え人を尊重することができるようになったと思います。
・いろいろなことを福祉的な視点で見ることが増えた。
・福祉をとりまく社会情勢、世界の福祉政策が理解でき、マクロ的思考が身についた。
・福祉に関するニュースを見る目が変わったり、家族や友人、知人が困っているときにアドバイスができるようになりました。
・文章力について、大学で多くの課題に取り組んだため1400字等はスラスラまとめる力がつきました。
・相手の立場に立ちわかりやすく説明する力が身についた。
・生活する上で、人の話を聞き、すべて否定することがなくなり、コミュニケーションにも役立っている。
・自分を客観視できるようになった。
・学ぶなかで、自信を取り戻せました。自分を少し離れ、他人に目を向けられるようになったと思います。今すでに出会っている方たちとのかかわりを豊かにし、これからの出会いを楽しみにする心が生まれています。
・「私なんか」というネガティブな言葉が減ったような気がします。
・レポート作成能力がとてもついた。自分へのふりかえりに利用している。

（仕事で役立っていること）

・利用者の方や家族の方々と接するとき、大いに役に立っている。今後も、仕事に向き合う際の考え方のベースとして役立てていきたい。
・多様な価値観を理解し、個別性を尊重して利用者とコミュニケーションを行えることが以前に比べて増えている。
・家庭や職場において、相手がどのような想いで話をしているのか、また相手が言葉で上手に表現できていない時には要約し確認するなど、「聴く」ことの大切さを意識するようになった。話し手が言葉をつまらせたり考えている様子を感じた時には、「待つ」こともするようになった。
・福祉現場で実践していることを場当たり的なものではなく説明できるものとするために、幅広い知識や技術を学びなおすことが必要であった。自らを振り返るにあたっての必要な知識や素養が以前よりも身についたと思う。
・福祉だけでなく幅広い知識を持つ重要性を感じました。１つの領域ではなく、ジェネラリストになれるよう日々自己研鑽していきたいと思います。
・人間が本来持っている尊厳に気づくことができ、多様な価値観を受け入れることができるようになった。
・言葉だけでなく、表情やしぐさなど全体的に個人の様子をとらえ、本当に求めているものは何かを考えるようになった。
・大学を卒業したことで職場で異動が決まった。学んだ内容を生かせる事業へ変わるので、そこで役立てていきたい。
・訪問看護の方に異動する予定なので、地域生活支援を実際に行うことになります。患者様の生活を支えるために学んだ知識を活用していきたいです。
・障がい者の就労支援の現場におりますが、日々活用されていると感じています。法律、制度、理論、援助の展開等、さまざまな場面で役立てられていると思います。ものの見方や考える力も養われたと感じています。
・児童養護施設で勤務をしており、社会福祉士・精神保健福祉士としての知識は、日々実践として役に立っている。人生で一番勉強をした期間であった。
・精神科病院での精神保健福祉士として勤務することが決まりましたので、相談援助技術等は大いに役立てていけると思います。学習した内容と現場とは異なることが多々あるとは思いますが、学んで来た内容は自分の根本的な考えの支えになると信じて最大限にいかしていきたいと思います。
・精神科勤務のため、患者対応や、保護課など関係機関のワーカーと具体的な相談をすることができる。就労支援など外部機関との連携にも今後役立てていきたい。
・現在、医療技術職として勤務しているが、精神疾患患者の対応や捉え方、援助方法等において、貴校に入学する前よりは少しでも理解できているのでは

ないかと感じる。
・一般企業でストレスチェックを担当しているため、精神保健福祉士を取得しできる部分が広がった。
・介護支援専門員として働いています。対象は要介護の高齢者ですが、障害をもっていたり、あるいは家族が精神疾患であったり、貧困家庭であったりと、幅広い知識が必要ですが、社会福祉を大学で学べたことで、その基礎を身につけることができたと思っています。今後、現場でいかしていけるように、学び続けることを大切にしていきたいと思います。
・介護支援専門員をしています。ケアマネジメントを行う中で、バイスティックの７原則、社会資源の活用、多職種連携の重要性等役立てています。また、一人暮らしで身寄りのない方の権利擁護に学びを役立てています。
・介護支援専門員として現場で働いていますが、地域包括ケアシステムへの移行が進む中で、さまざまな制度の活用や連携支援の図り方等で、大学で得た知識、経験等が役立っています。自信を持って関係機関とやりとりし、利用者様の為にケアが行えていると実感出来ます。
・就労支援Ｂ型で働いていますが、日々の支援の中でさまざまな気づきがあります。大学で学んだこと、資格試験のために学んだことは、そのまま生活支援、就労支援の中で活用されています。
・障がい者支援施設の管理者として総合的な判断を求められる場合の基礎知識として役立てています。
・学習サポーターとしての日々の対応に役立っていると思います。
・現在保育士をしているので、保護者対応や複雑なケースの際に役立てたい。
・フィールドを広げて、教育（スクールソーシャルワーク）や家庭児童の支援にも役立てていけたらと思っています。
・福祉を巡る社会実態の諸問題と、学問的な捉え方を学んだゆえに、この固い、堅い、医療・福祉・行政のがんじがらめの世界をどう戦略的に崩していくかは、自由がきかない世界ゆえに相当考え、突っこんでいく必要があると感じています（民間企業より自由がないです）。
・電話相談の際、相談の組み立て、相談者への理解が深まった。社会保障や生活保護制度に詳しくなった。
・利用者の不安を軽減できるよう、学んだ知識を仕事でいかしていきたい。
・利用者からの心ない対応や暴言、度重なる対応に追われたとしても、より冷静に対応（毎日の個別性を重んじる）。その利用者や家族等の背景、生育歴、価値観、いろいろなことがあって今があるという考え。チームケアで、切りかえ抱えこまない。全体を見る、先を見る、調整・見直ししていく。「できる人」という視点、共に歩む。

・相談援助職に携わっており、学んだことは即実践に活かせました。常にエビデンスソーシャルワークを意識するようになりました。

（地域・ボランティア活動のなかで役立っていること）

・地域住民として、地域での高齢者世帯に対する支援（自治会長や民生委員との話し合い・見守り・声掛け・代わりにゴミステーション清掃など）を行っています。
・友人、知人等からの高齢者等の支援に関する相談での、各関係機関や制度等の情報提供。
・ボランティアで行っている電話相談に役立てています。成年後見制度の後見人などもやってみたいです。
・現在、知的障害者の余暇活動にボランティアとして関わっており、学んだ内容をいかしていきたい。
・自身も障がいを抱えているが助けてと言えない方や、困っているのに声をあげられない方に寄り添えるように、これまで学んだことをいかしたい。
・私と同じく障がいや生きづらさを抱えた人と一緒に少しでも暮らしやすい社会をつくっていきたいです。
・まちづくり活動の現場で、地域にさまざまな人が住んでいることを忘れないでいること。

（家庭で役立っていること）

・自分の両親や親戚に対して、「権利擁護」や「当事者の尊厳」をいかしながらよりQOLの向上をめざす援助のあり方を、適切な社会資源を活用しながら模索しています。
・自分自身や家族の退職、就職、入院などにおいて、学習した制度などが知識として役立った。また、さまざまな制度、環境、実態等を学習したことで視野が広がり、職場での業務にいかすことができた。
・障がい児を育てる日々に専門知識に基づいた考え方や視点を持つようになり、冷静に問題に対応していく方法を考え、行動につなげることができた。
・日常生活での生活課題（現在子育て中のため、児童福祉に関すること等）を解決したり、制度等の知識を得たい時に学んだ内容が役に立っている。

【福祉心理学科　卒業生より】

（全般的に役立っていること）

・コミュニケーション能力が向上した。また、心理学を学んだことで客観的視点から、ものを見ることができるようになったと思う。
・家庭や職場、その他人との関わりの中で学んだ理論にあてはめ、今はこんな状態、ではどんな対処があるのだろうか等と考えることができるようになったと思う。
・学んだということがすべての勇気につながり、これからも、最後までやりとげたことは自信につながります。
・友人の相談・自分を客観的に見ることができるようになった。
・自分自身が生きやすい環境作りのために役立てる。
・不登校児対応にとても役立った。
・自分自身を見つめコントロールする上で役立っている。家族を含めた身近なところで役立てたいと思っているが、もっと学びを深める必要があると感じている。
・自己理解に役立っています。熟達の過程と成人以降の能力・人格の発達について学べたことは、今後さらに学習を続けるモチベーションになります。

（仕事で役立っていること）

・ひきこもり、ニートなどの若者に対して、心理的側面からの支援やアプローチ。アセスメントから始まり、自己理解・他者理解に立った心理学的な支援、発達と教育の視点など多岐に渡っている。
・障害と健常、異常と正常で簡単にくくってしまうのではなく、困難を抱えているさまざまな人に対して、心理的側面からの効果的な支援、アプローチをしていきたい。
・総合支援法の障害支援区分に係る認定調査の際に役立っている。今後は大学で学んだことを入り口として興味のある分野を掘り下げていきたい。
・職場で臨床試験に関わっているため、話の聞き方に少し変化が出たように思っています。
・職場でのコミュニケーションに役立っている。
・行政書士事務所の補助として就職が決まり、依頼人は介護施設入所者や高齢者の方々が多いため、大学で学んだ福祉・心理・話の聴き方などを実践としていかしていけると思います。
・音楽の仕事（教室)･生徒（障がい児）の心理的な側面を見るようになった。
・保育園での子どもとの関わり方や保護者支援に役立っている。
・教員として生徒の声に耳を傾けるとき、また生徒の意欲を引き出すときに、

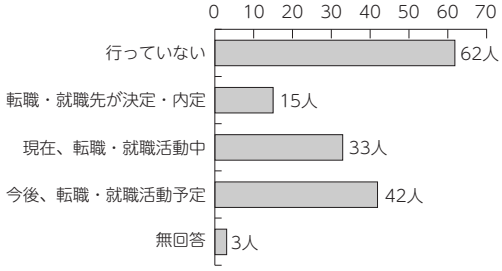
いろいろなアプローチ法を使うようにしている。

（家庭・ボランティア・その他で役立っていること）

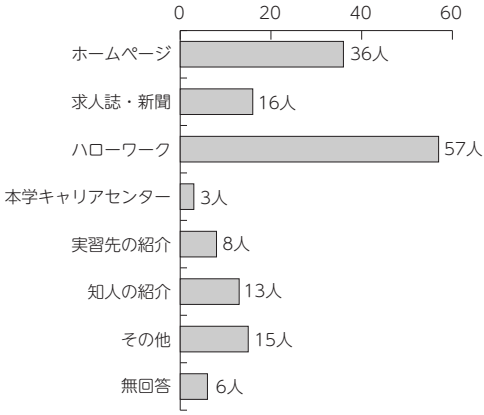
・傾聴ボランティア等のボランティア活動に役立てていきたい。
・老年心理学での学びが老親と接する際の参考になりました。どういった面が衰え（記憶や注意力など）、それをどうとらえるかは、いろいろな考え方があるとわかり有意義でした。
・学習前よりも相手の見方などについて考えるようになり、家族との関係などを良くしていくのに役立てています。
・家族を含めた人間との関わり方において役立てている。
・元々の関心は「仕事を通じた（人間的）成長」でしたが、卒業研究で少ししか触れられなかった「省察的実践」についてさらに深く学ぶため大学院進学を準備中です。

5　卒業後の転職・就職についてお聞きします。

1）通信教育部で取得した資格や学んだことをいかして、転職・就職活動を行っていますか。



2）上記1）で「行っていない」以外を選択された方にお聞きします。転職・就職先の情報はどのような方法で得ましたか、または得る予定ですか。（複数回答）



【具体的な転職・就職活動の結果や方法について】

（就職・転職済・内定）

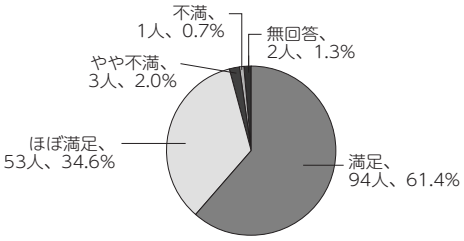
・現在の職場の関係機関でしたが、職種が違うこともあって、履歴書・職務経歴書を送り、面接を受けました。
・現在の転職先は、前職の資格もいかせ障害者サービスの仕事もできるという、自分の希望である仕事場です。
・相談員の求人に多数応募したがどこの求人も経験者を求めているようであった。最終的に実習を受けた施設の求人があり応募し採用されたので、実習での様子を見て信頼を持ってもらえたのだと思う。
・病院内での事務職からケースワーカーへの配置転換の予定（合格していた場合）。
・新卒ハローワーク担当者に通信教育に対する基本理解がなく、自らホームページや福祉の相談会に行きました。
・福祉事業所へ転職。
・大学で心理学を学んだこと、社会福祉制度について学んだことを採用担当の方へアピールした。

（就職・転職・異動活動中）

・ネットによる求人検索で気になる所をチェックし、後日ハローワークに出向き求人票で内容を確認しています。

・現在、ハローワークを通じて年金事務所と福祉事務所の事務職に応募し、書類選考の結果を待っています。
・インターネット上の福祉系情報誌をみて自分が働きたい職場をみつけ、直接連絡する方法で活動している。
・民間企業から福祉業界への転職希望のため、現在、説明会やハローワークなどを活用し就活を行っております。
・キャリアコンサルタントと適宜相談中。
・通信教育部で知り合った人から情報をもらっている。
・社会福祉協議会の理事長が自宅を訪問してきて、就職の勧誘があった。
・病院から福祉施設（児童放課後デイサービス）へ転職、面接予定。
・病院内の他部署から医療ソーシャルワーカーへ異動できないか相談中。

6　あなたは東北福祉大学通信教育部で学んで満足できましたか。



【本学で学んだ感想、通信教育部に対するご意見・ご要望、在学生へのメッセージなど】

【社会福祉学科　卒業生より】

（本学で学んだ感想）

・自分自身の視野を広げ、いろいろな角度から福祉を学ぶことができて、貴重な、そして素晴らしい４年間になりました。最初の２年間はレポートに時間がかかりすぎて、とても４年間では卒業できないのではないかと、何度も諦めかけました。でも、時間や出来栄えにとらわれることなく書いていこうと決めてから楽になりました。
・年齢を経てからの学びは、辛くもありましたが、それを上回る楽しさと、血肉になっている実感があります。
・実習がとても大変でしたが、先生方・事務局の方々・友人たちの支えで乗り越えることができました。熱意ある手厚い指導を受けることができ、東北福祉大通信教育部に入学し、大正解でした。私はこちらを卒業できることを誇りに思います。

・とてもハードでしたが、貴校を選んで本当に良かったと思います。普段関わっている業務に深みが出たと感じています。ありがとうございました。
・大学での学びは自分が予想していた以上に素晴らしく充実したものでした。レポートを書く、という作業は大変でもありますが、その作業があったからこそ、その科目全体を理解し、スクーリングの内容をより把握する助けになったのではないかと思います。知識を得る、ということの大切さ、また、教養は結果的に自分を守ること、また自分が今後飛躍する上で欠かせない財産であることを実感致しました。
・大学に入学したばかりのころ、何もかも自分で決めなければいけないことに慣れなかったが、事務局から連絡がありアドバイスをもらった。それからは軌道に乗り、自分で学ぶペースをつかむことができたことはとても助かった。
・レポート学習と社会福祉援助技術実習がとにかく大変でした。しかし、今振り返ってみると、この苦労は自身に必要なものであったと考えています。自身の仕事に対する姿勢にも良い影響があったと思っています。
・乗り切れたのは先生方、事務の方、そして、友人たちのおかげです。一緒に卒業しよう、国家試験頑張ろうと声を掛け合ったことが宝物になりました。
・もっと多くの科目を受講して、講義や先生方のお話を聞きたい。もう少し卒業を延ばしたい気持ちです。
・大卒の資格が欲しくて、あまり勉強内容にはこだわらずに入学しました。また、文章を読むことが苦手だったので、課題を読むのも大変でした。しかし、自分の思いや考えをレポートを通してまとめる作業は楽しかったですし、それが評価されて戻ってくることはドキドキしつつも楽しみでした。
・家庭支援の必要性を感じ、自分がその役を担いたいと思い入学しました。多くの先生の考えを聞き、自分の福祉観を高めることができました。
・毎日が目標に向かって必死でした。しかし、その中でも心に残る授業も多く、先生や事務部スタッフの方々には本当に感謝しています。大学での学びは自分と向き合うことも多く、自分の人生においてもプラスになるものでしたし、家族や友人、会社の同僚のありがたさを改めて感じることもできました。人と人とのつながりの中で私たちは生活していることを忘れず、これからも学習していきたいです。
・資格を得るための入学も必要と感じるが、やはり基本は専門領域を学び、地域に、対象者に貢献することが本来の目的と今の自分はそう感じている。東北福祉大学で学んだことをとても嬉しく、そして誇りに感じている。
・定年後、これまでの人生経験のなかで未知の世界である福祉を勉強し、卒業でき、国家試験を受験できたことは大きな自信となりました。慣れたことを

やり続けることも大事なことですが、新たなことに挑戦する意義を見出すことができ、これも通信教育部で学んだ成果だと思っています。

・科目修了試験で単位修得した科目もありますが、スクーリングを受ける方法を主に選び学習を進めました。どの科目も先生が熱心で講義が面白く、充実した時間を過ごすことができました。
・スクーリングでの先生方の体験談や、これまでの成り立ちは大変興味深く、人生を変える参考ともなりました。
・仕事をしながら学ぶということは想像以上に大変でした。いかにタイムマネジメントが上手にできるかが大切だったように思います。
・仲間ができたことは、学び、人生においてとても良かったことです。今後も連絡をとりあいながら関係は続くと思います。
・スクーリングを通じ、一緒に学びあえる友人たちに出逢えたことで、孤独にならず締切も守れました。PCやレポート提出だけだったら途中でやめていたかもしれません。“人”の支援を学びながら“人”にさらに支えられました。
・締切に追われながら教科書を熟読したりレポートを書くことは時々心が折れそうになったが、支え合える仲間がいたおかげで乗り越えることができた。
・この２年間の学びは自分の糧となりました。人生死ぬまで勉強と聞きますが、福祉業界に限らず社会は日々変化し、時代の変化とともに役割も変わっています。そのことを忘れずに日々を生きていこうと思います。
・２年間大学で学び、経験だけではカバーできなかった知識をしっかり学べ、今は自信を持って相談業務ができていると思います。途中、仕事・家事・勉強と忙しくレポートが進まず悩んだ時期もありましたが、スクーリングに参加して先生や同じく学ぶ方々から刺激を受け頑張って乗り切れたと思います。
・あきらめない気持ちが大事ですね。
・学んだことはこれから実践、仕事の中でその学びの深さや浅さが出てくると思います（社会福祉学の知識・理解は仕事・実践の中であらためて理解していくと思う）。
・スクーリングがとても充実していたと思います。科目修了試験はいつも大変でしたが、不得意科目もよく学習できたと思います。これからの日常業務にも役立つものが沢山みつけられたと思います。
・再提出のレポートに対して、先生方のあたたかいコメントを何度も何度も読み返して進めていった。　〜〜　再提出　その折くやむが　学びは尊し。
・自分なりに必死に学んだ２年間でした。特に実習では、１カ月まるまる福祉のことだけ考えて生きた濃い時間となり、悩み考えながら、自分の考え方にも大きく影響が出るほど育てていただいた時間になったと思います。私自身

障害があり福祉を受ける側の人間でしたが、援助者としての視点から見ることで感じ方が変わりました。私自身の苦しみや痛み、喪失感や怒りすらも糧として、苦しむ誰かの役に立つため、よりそえる形に変わっていけるよう道ができたと思います。一つも無駄にすることなく、これからも精進していきます。

・９年間の学生生活は、私の障害受容と回復への旅の一部でした。摂食障害は精神疾患であるといわれショックを受けたことから始まり、「その人が変わらないのは、あなたが待たないからだ」というお言葉に衝撃を受け、赤塚先生のスクーリングで福祉は熱いものだと知ることができました。王道やメインストリームからはそれてしまっても、コツコツ続ければ成すことができると実感できる、すばらしい学生生活でした。こういう人間をサポートしつづけてくださったことに心から感謝しています。このご恩を社会に貢献することでお返ししたいです。

（在学生へのメッセージ）

・在学生の方へ　最初は通信教育の難解なシステムに困惑しましたが、積極的に職員の方へ質問すると対応してくださいました。わからないことがあるときは、職員の方々は親切ですので、ひとりで悩まずどんどん質問することをお勧めします。

・スクーリングでは、現場を知る先生方から教科書の文字だけではわからない、現場のさまざまな側面を教えていただきました。概ね熱意の感じられる授業で、可能な限りスクーリングを活用することをお勧めします。自分のものの見方や考え方を深めることができます。自分の経験ばかりでなく、他の学校の通信教育で学習した人の様子と比べてみても、東北福祉大学で勉強してよかったと思います。

・年齢を問わず、より多くの方が、新しい知識や考察力を身につけ、大きな力にかえて進んでいってほしいと思います。ヒトが人を支える力は、今後ますます必要、かつ重要です。

・在学生の皆さん、スクーリングは勉強と新たな人脈の宝庫です。価値観が全く違う人や同じ人、年齢、職業でこんなにも多様な見方があるのかと勉強できるよい機会でもあります。なるべくならスクーリングに出て生の授業を受け、そして近くの人と話をしてください。新たな自分の発見があると思います。

・在学生の皆さんは、これから悩むことが沢山あると思います。悩んだらとりあえずやってみると良いと思います。通信教育部に相談する、スクーリングを受ける。これだけで解決することがほとんどです。大学は自分から問えば

助けてくれる場所なので、頼れるうちに頼って解決し、自らの学問の方に費やせる時間を増やすことをお勧めします。

・最初は卒業できるのか不安で仕方なかったけれど、学び始めればなんとかなりました。レポートで再提出になったことも、科目修了試験で、何度も同一科目が不合格になったこともあります。でも、なんとかなりました！　在学生の皆さんもがんばってください。

・在学生の皆さん、とにかく書いて書いて書きまくってください。そのうち書き方がわかってくるはずです。１人でも多くの方が、諦めることなく卒業を手にすることを願っています。

・私は通学制の大学で挫折し中退しましたが、働きながら東北福祉大学へ３年次編入で入学し、無事に卒業を果たしました。道程は辛く大変なものでしたが、それを乗り越えると必ず素晴らしい景色が見えてきます。大変に感じたら時に休憩を取り、また学習を再開すれば良いのです。大切なのは「諦めないこと」です。

・東北福祉大での学びは人生を豊かにしてくれるはずです。頑張ってください。

・国家試験を目指す人は別レポートの解答を最低でも30回行うことを強くすすめる。それによりその科目が得意科目となり得点源になる。過去問や予想問題も繰り返し解答、間違えた所は解説を読み、それでも理解できない問題はノートまとめたり教科書などを読む。国試対策アプリも活用した。

【福祉心理学科　卒業生より】

（本学で学んだ感想）

・福祉心理学科では国家資格取得がない分、まんべんなく福祉・心理が学べたと思います。カウンセリング演習等の授業は、学科に関係なく話し合い、情報交換ができた場で楽しかったです。

・仕事との両立に最初はとても不安がありましたが、学べば学ぶほど、さまざまなことが紐解かれていく感覚がありました。レポートなどは大変でしたが、とても充実した２年間でした。ありがとうございました。

・人間の本質にせまる学習ができました。学んだことを仕事で活かしたいです。

・スクーリングでわかりやすく教えていただいたり、レポートで先生からご指導いただくことで、整理して考えたりまとめたりすることができるようになってきたと思います。

・子どもに「夢をあきらめないで最後までがんばって」と話している私が大学をあきらめたら…若い時に進学しなかったコンプレックスと後悔からようや

く脱出できます。50歳を前に自分をほめたい気分です。
・仕事をしながら学ぶことは大変で長期間かかってしまいました。震災時被災したためあきらめようとも考えましたが、お電話をした際に励ましていただき、教科書も無償提供してくださり本当に助かりました。今はあきらめず良かったと思っています。ありがとうございました。
・通信教育部への入学は、心理学の知見を学ぶことで、仕事でより効果的な支援ができるかもしれないという思いからでした。卒業研究を行いましたが、これを最後まであきらめずに書き上げたことが思いがけず自分自身の成長につながったように思います。

(在学生へのメッセージ)
・学習初期では、教科書を読んでいても専門用語が多く難解な文章に眠くなるばかりですが、複数の科目にまたがって繰り返し出てくる用語や理論も多く、スクーリングやオンデマンドを取り入れながら学習を進めていくうちに、慣れてくると思います。試行錯誤しながら初年度が終わる頃には、学習時間の作り方等、自分なりの学習ペースができてくると思います。
・レポート課題と対話をすると、どのような内容、・構成でレポートを作成していこうかがたくさん見えてきます。通信制はレポートに合格しなければ卒業には結びつかないので、レポート課題とたくさん対話をし、初志貫徹！卒業めざして頑張ってください。
・普段生徒同士や先生と話す機会が少ない通信教育部では、スクーリングの場が交流のきっかけとなります。何かの縁があってその場にいた方々と会い、話すことはきっと何かにつながると思います。ここの大学を選んで自信につながっていると胸を張って言えます。

ご協力いただいた卒業者の皆様に厚く御礼申しあげます。紙面の関係ですべては掲載できませんでした。通信教育部ホームページ「学生・卒業生の声」欄ではもう少し多くのメッセージやアンケート結果を掲載予定です（６月下旬予定)。よろしければご覧ください。